

女子大学生の服装規範について 第1報

フォーマルウェアの知識の理解度

原田 妙子

Social Norm of the Women's University Students (I) Knowledge of The Formal Wear

Taeko HARADA

緒言

就職試験に臨む大学生は、普段着なれないリクルートスーツを着用する。葬儀に参列する人は黒い喪服を着用する。社会の中には服装に関してもマナーや常識と称する暗黙の決まりごとがある。このように社会の中で生活を営む人々が、社会の秩序や規律を維持するために、物事の判断や評価のために作り上げた暗黙の「基準」や「規則」のことを「社会規範」(social norm) という¹⁾。

第2次世界大戦後、日本人が洋服を身に着けるようになり、洋服を着用することが定着した現在、フォーマルな機会には、ほとんどの人が洋服を着用するようになっている。その社会において、日本のフォーマルシーンが増加していることに対応して、フォーマルウェアの正しい知識を広く一般に普及及び啓蒙するために、1976年に日本フォーマル協会が創立された²⁾。

本研究では、このようなことを背景に、女子大学生がどの程度フォーマルウェアのルールを理解し、認識しているかを探ることを目的とする。それを知ることで、正しく洋服を着用できる知識をカリキュラムに取り入れるための一助としたいと考える。

方法

今回の質問項目は、日本フォーマル協会によるフォーマルスペシャリスト準2級の過去4年間のレディースの問題を整理して、同じものを一つにまとめた39問を使用した。質問の内容は、表1-1、表1-2に示すとおりであり、その項目について正しければ○を、間違っていれば×をつけさせた。参考として、その解答を右の()に示す。

調査時期は、平成26年7月である。

被験者は、女子大学生140名であり、その内訳は、本学家政学部生活環境学科2年次学生71名、同家政経済学科2年次学生30名、短期大学部生活学科生活創造デザインコース1年次学生26名、同2年次学生13名である。

4グループとも被服関連科目を履修している学生であるが、短期大学部生活学科では、1年次学生はフォーマルスペシャリスト準2級の取得を目指し勉強をしている学生であり、同2年次学生は昨年フォーマルスペシャリスト準2級を取得した学生である。

表1-1 質問項目と解答(1)

フォーマルウェアに関するルールやマナーについて、

次の文章を読んで、合っているものには○を、間違っているものには×を付けてください。

1. 正礼装で装う場合、昼間・夜間とも華やかなイブニングドレスを着用する。(×)
2. 昼の正礼装に「アフタヌーンドレス」、準礼装に「カクテルドレス」がある。(×)
3. 昼の結婚式・披露宴で準礼装の「セミアフタヌーンドレス」を着用するのは、主催者および主な立場の人だけである。(×)
4. 夜の格式ある結婚式・披露宴・観劇などで『イブニングドレス』を着用するのは、主な立場の人と参列者である。(○)
5. 夜の結婚式・披露宴で準礼装の「イブニングドレス」を着用するのは着用するは、主催者および主な立場の人と参列者である。(×)
6. 昼の準礼装に「カクテルドレス」、略礼装に「インフォーマルドレス」がある。(×)
7. 正喪服のスタイルは、「ローブモンタント」を原型とした、シンプルなデザインのワンピース、スーツ、アンサンブルなどで、季節を問わず光沢の無い素材で、色は黒に限る。(○)
8. 弔事の葬儀・告別式で正喪服「ブラックフォーマルドレス」を着用するのは、主催者および主な立場の人である。(○)
9. 招待状に『ブラックタイ』の服装指定がある場合、女性も昼の正礼装であるアフタヌーンドレスを着用する。(×)
10. 『平服指定』の場合は、特に制約がないため、正礼装や準礼装よりも自由に着こなしが楽しめる略礼装が良い。(○)
11. 昼の正礼装のスタイルは、胸、背、肩をくったワンピース『ローブデコルテ』である。(×)
12. 結婚式で男性がモーニングコートを着用する場合、女性も正礼装であるアフタヌーンドレスを着用する。(○)
13. アフタヌーンドレスのスタイルは、衿元をあまりくらず、袖は7～8分丈から長袖で肌の露出が少ないのが特徴である。(○)
14. アフタヌーンドレスの素材は、クレープ、クロック、マトラッセ、レースなどが適している。(○)
15. アフタヌーンドレスで着用するアクセサリーは、光の強いダイヤなどを豪華にあしらったネックレスやイヤリングなどが最適である。(×)
16. アフタヌーンドレスで着用する帽子のデザインは、屋内、屋外を問わず、つばの無いものに限る。(×)
17. アフタヌーンドレスで着用する靴は、プレーンなハイヒールパンプスは良いが、ドレスと共布の靴はふさわしくない。(×)
18. 準礼装「セミアフタヌーンドレス」のスタイルはワンピースに限り、それ以外のアンサンブルやスーツなどは適さない。(×)
19. アフタヌーンドレスで用いるバッグは、シンプルなデザインでクラッチや手提げ型の他に、ショルダー型も良い。(×)
20. 夜の正礼装「イブニングドレス」のデザインに、オフショルダーやワンショルダーなどは適さない。(×)
21. イブニングドレスの素材は、豪華なラメ地や、プロケードなど光沢のあるものや、重量感のあるマトラッセなどが適している。(○)
22. 夜の正礼装のドレス丈は、靴先が見えるヒール丈から床までのフロア丈が一般的である。(○)
23. 「イブニングドレス」で着用する手袋は、白のサテンやキッド素材の肘上タイプが正式である。(○)
24. イブニングドレスで着用するネックレス、イヤリングやブレスレットなどは、真珠に限られ、モチーフを統一する。(×)
25. 夜の正礼装で着用する靴は、ドレスと共布か、光沢の無いプレーンなハイヒールパンプスに限る。(×)
26. 夜間、男性が正礼装である燕尾服を着用する場合、女子も華やかなカクテルドレスで装う。(×)
27. 夜の準礼装であるカクテルドレスは、イブニングドレスよりも形式ばらず広範囲に着用でき、様々なデザインが楽しめる。(○)
28. カクテルドレスで用いるバッグは、小型で光沢のあるメタルレースやラインストーンなどはふさわしくない。(×)

表1-2 質問項目と解答(2)

- | |
|--|
| 29. カクテルドレスを着用する場合、手袋を添えると、よりフォーマルな印象が増して素敵である。(○) |
| 30. 夜のインフォーマルドレスにふさわしい靴は、光沢がなくヒールの低いものが最適である。(×) |
| 31. 正喪服はシンプルなデザインで、季節を問わず光沢の無い素材で、色は黒と限る。(○) |
| 32. 正喪服のスカート丈は、くるぶしまでのロング丈でも良い。(○) |
| 33. 正喪服で用いるバッグは、光沢のない黒で、数珠や袱紗が入る程度の大きさが適している。(○) |
| 34. 正喪服で着用するネックレスは1連のもので、黒・白の真珠、オニキス、黒曜石などがふさわしい。(○) |
| 35. 夏の正喪服は、黒地でシンプルなデザインであれば、袖なしでも良い。(×) |
| 36. 略喪服のスタイルは、ワンピースに限り、パンツスーツなどは適さない。(×) |
| 37. 準喪服のスタイルは、黒を基本としてワンピース、スーツ、アンサンブルなどがふさわしい。パンツスタイルはカジュアルになるので避けた方が無難である。(×) |
| 38. 喪服の素材には季節感を大切にすることもフォーマルのマナーであり、夏にベルベットなどのドレスはふさわしくない。(○) |
| 39. 喪服で手袋を着用する場合、お線香の時ははずし、献花や玉串奉納の時にははめたままで良い。(○) |

質問用紙を採点し、それぞれ個人の得点を100点満点で求め、さらに各問題の正解率を求め、単純集計およびクロス集計を行い、その結果を比較検討した。

結果および考察

1. フォーマルウェアの各ルールについての正解率

フォーマルウェアの各ルールについて、回答者のうち正解した人の割合を算出し、図1に示す。なお、以下のグラフの項目は、祝事のフォーマルウェアに関する質問(1~6, 9~30)と弔事のフォーマルウェアに関する質問(7~8, 31~39)とに分けて表記しているため、表1-1, 表1-2の出現の順を変更している。

(1) 祝事のフォーマルウェアのルールについて

祝事のフォーマルウェアのバランスチャートについての質問に対する解答では、「正礼装で装う場合、昼間・夜間とも華やかなイブニングドレスを着用する」(×)を正解であった人は80%以上であり、イブニングドレスのように「夜」という言葉が入っていることで、ある程度想像が出来たと考えられ、「『平服指定』の場合は、特に制約がないため、正礼装や準礼装よりも自由に着こなしが楽しめる略礼装で良い」(○)を正解した人も70%いる。しかし、ドレスコードで使われる『ブラックタイ』について尋ねた「招待状に『ブラックタイ』の服装指定がある場合、女性も昼の正礼装であるアフタヌンドレスを着用する」(×)には正しく答えられていない。これは、『ブラックタイ』が夜の男性の正礼装であることが把握できていないことによる間違いと言える。さらに、「昼の準礼装に「カクテルドレス」、略礼装には「インフォーマルドレス」がある」(×)についても正解率が低く、カクテルドレスが夜のドレスであることが理解できていない。

次に、具体的なルールについてみる。正解率が高かったものを見ると、「カクテルドレスを着用する場合、手袋を添えると、よりフォーマルな印象が増して素敵である」、「夜の準礼装であるカクテルドレスは、イブニングドレスよりも形式ばらず広範囲に着用でき、様々なデザインが楽しめる」、「アフタヌンドレスのスタイルは、衿元をあまりくらず、袖は7~8分丈から長袖で肌の露出が少ないのが特徴である」、「イブニングドレスの素材は、豪華なラメ地や、

ブロードなど光沢のあるものや、貴重感のあるマトラッセなどが適している」で75%を超えている。これらは、正礼装での手袋や素材などイメージしやすいもので、質問内容が合っている（解答が○の）ものであった。逆に、正解率が低いものは、「夜間、男性が正礼装である燕尾服を着用する場合、女子も華やかなカクテルドレスで装う」（×）が32.14%で最も低く、燕尾服が正礼装であることとカクテルドレスが準礼装であることが理解できていない人が多く、次いで「アフタヌンドレスで用いるバッグは、シンプルなデザインでクラッチや手提げ型の他に、ショルダー型も良い」（×）、「アフタヌンドレスで着用する靴は、プレーンなハイヒールは良いが、ドレスと共布の靴はふさわしくない」（×）が50%を切っており、1か所が違っていることに気づかないようであり、これらは全て解答が×の項目であった。このことから、女子大学生は、祝事のフォーマルウェアのルールについては、なんとなく大体のイメージでは理解できているもののう覚えの部分のかなりあると推察される。

（2）弔事のフォーマルウェアのルールについて

弔事に着用する喪服についての質問項目では、「正喪服で用いるバッグは、光沢の無い黒で、数珠や袱紗が入る程度の大きさが適している」（○）、「正喪服のスタイルは、「ローブモンタント」を原型とした、シンプルなデザインのワンピース、スーツ、アンサンブルなどで、季節を問わず光沢の無い素材で、色は黒に限る」（○）、「正喪服で着用するネックレスは1連のもので、黒・白の真珠、オニキス、黒曜石などがふさわしい」（○）、「正喪服はシンプルなデザインで、季節を問わず光沢の無い素材で、色は黒に限る」（○）が、80%以上の正解率で、祝事のフォーマルウェアのルールより高い正解率を示す。女子大学生は、喪服に対しては、シンプルなデザインや光沢の無い黒に限るということは理解できているようである。しかし、不正解が多かった項目は「準喪服のスタイルは、黒を基本としてワンピース、スーツ、アンサンブルなどがふさわしい。パンツスタイルはカジュアルになるので避けた方が無難である」（×）、「弔事の葬儀・告別式では正喪服「ブラックフォーマルドレス」を着用するのは、主催者および主な立場の人である」（○）の2項目あり、「ブラックフォーマルドレス」を着用する対象が正しく理解できていなかったり、準喪服のスタイルは、現在ではパンツスタイルでもいいことが浸透していないことがわかる。

第2次世界大戦以後、ほとんどの日本人は洋服を着用するようになった。祝事のフォーマルウェアに比べてルールが細分化していない喪服の場合は、かなり女子学生にも理解されていると思われる。しかし、祝事の場合には、振り袖や留袖など、ルールとして昼間と夜間の区別がほとんど付けられていない和服を着ることも未だ多く、洋服を着用するときは、普段着か略礼装の範囲となり、フォーマルウェアのルールとして近年よく使われるようになった『ドレスコード』などについては、理解していないようである。

2. グループ別の平均点

今回の被験者は、どの学生も被服分野に興味があり、その関連科目を履修している学生であるが、履修カリキュラムには違いがある。

そこで、学科学年ごとにグループ別の平均点を図2に示す。

最も平均点が高かったのは、生活

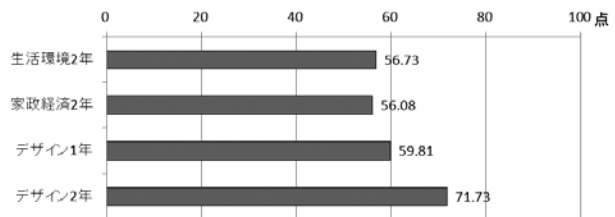


図2 グループ別の平均点

創造デザインコース2年次学生であり、71.73点である。次いで、生活創造デザインコース1年次学生であるが、59.81点とかなり差があった。生活環境学科2年次学生は56.73点、家政経済学科2年次学生は56.68点であり、生活創造デザインコース1年次学生とあまり差がないという結果であった。

これは、生活創造デザインコース2年次学生は、すでに昨年11月にフォーマルスペシャリスト準2級を取得した学生であることが、他のグループとに差ができたと思われる。他の3グループは、被服に関してある程度の知識はあるものの、フォーマルウェアのルールについて詳しく学ぶ機会がなかったと考えられる。生活創造デザインコース1年次学生は、今年の11月に準2級の受験を控えているが、受験の前に数回の補習を行うことが決められており、それによって知識が積み上げられることになる。

また、生活創造デザインコース2年次学生は、他のグループと比べて得点は高いが、準2級の検定の合格ラインは80点以上であり、すでに時間の経過に伴い忘れていく項目もいくつか見られる。

3. 祝事のフォーマルウェアと弔事のフォーマルウェアのルール

フォーマルウェアのルールでは、多くのことが決められており、女子大学生の認識については、フォーマルスペシャリスト準2級の検定を取得している生活創造デザインコース2年次学生の平均点が高いことが分かった。

フォーマルウェアを分類すると、結婚式や記念式典、パーティーなどの時に着用する祝事のフォーマルウェアと、告別式や葬儀などの時に着用する弔事のフォーマルウェアとに分けられる。さらに、祝事のフォーマルウェアは、着用する時間帯によって昼間と夜間に分けられる。それぞれで、着用者の立場や場合によって違っている。

そこで、各グループによって理解度の違いがあるかを見ることにした。その結果を図3に示す。先に述べたように平均点は各グループで差はあるものの、どのグループも弔事のフォーマルウェアのルールについての質問の平均点が高くなっている。

女子大生が弔事に出席する機会は年齢からみてもそれほど多くはないので比較的わかりやすいのに対して、祝事のフォーマルウェアのルールやドレスコードがかなり多様に分かれているため、細かいところまでは理解しておらず、平均値が低くなっていると推測できる。

和服をほとんど着ることがなく所持すること

とも少なくなった若い女性が、第2次世界大戦後に日本に普及した洋服を、おしゃれに着用している現在ではあるが、そのルールをきちんと学ぶ機会があまりなく、なんとなく着用しているというのが現状ではないか。

そこで、全体にどの項目で分からない人が多いのか、あるいはフォーマルスペシャリスト準2級の取得のために学んだことによって理解できており、逆にきちんと学ばなければわからな

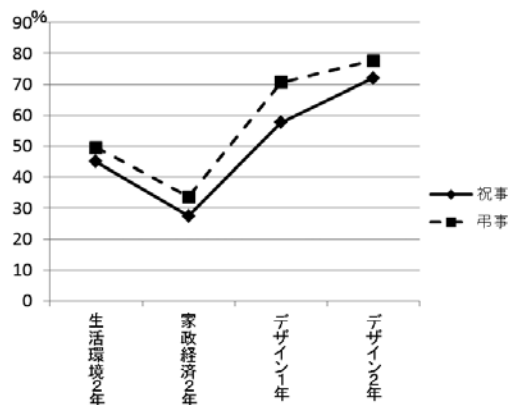


図3 祝事と弔事のフォーマルウェアの平均点

い項目は何であるかなどについて検討するため、学科学年ごとにクロス集計を行い、図4に各項目ごとのグループ別平均点を示す。

どのグループも平均点が低かった項目は、「夜の結婚式・披露宴で準礼装の「イブニングドレス」を着用するのは、主催者および主な立場の参列者である」(×),「招待状に『ブラックタイ』の服装指定がある場合、女性も昼の正礼装であるアフタヌンドレスを着用する」(×),「昼の正礼装のスタイルは、胸、背、肩をくったワンピース『ローブデコルテ』である」(×),「アフタヌンドレスで用いるバッグはシンプルなデザインでクラッチや手提げ型の他に、ショルダー型も良い」(×),「弔事の葬儀・告別式で正喪服「ブラックフォーマルドレス」を着用するのは、主催者および主な立場の人である」(○),「準喪服のスタイルは、黒を基本としてワンピース、スーツ、アンサンブルなどがふさわしい。パンツスタイルはカジュアルになるので避けた方が無難である」(×)の6項目である。

逆に、生活創造デザインコース1年次学生と2年次学生がともに高い点であった項目は、「『平服指定』の場合、特に制約がないため、正礼装や準礼装よりも自由に着こなしが楽しめる略礼装が良い」(○),「イブニングドレスで着用する手袋は、白のサテンやキッド素材の肘上タイプが正式である」(○),「カクテルドレスを着用する場合、手袋を添えると、よりフォーマルな印象が増えて素敵である」(○),「正喪服のスタイルは、「ローブモント」を原型とした、シンプルなデザインのワンピース、スーツ、アンサンブルなどで、季節を問わず光沢の無い素材で、色は黒に限る」(○),「正喪服で着用するネックレスは1連のもので、黒・白の真珠、オニキス、黒曜石などがふさわしい」(○),「夏の正喪服は、黒地でシンプルなデザインであれば、袖なしでも良い」(×)の6項目であり、さらに、フォーマルスベシャリスト準2級を取得した生活創造デザインコース2年次学生だけが80%以上の正解率であった項目は多く、「正礼装で装う場合、昼間・夜間とも華やかなイブニングドレスを着用する」(×),「結婚式で男性がモーニングコートを着用する場合、女性も正礼装であるアフタヌンドレスを着用する」(○),「アフタヌンドレスのスタイルは、衿元をあまりくらず、袖は7～8分丈から長袖で肌の露出が少ないのが特徴である」(○),「アフタヌンドレスの素材は、クレープ、クロック、マトラッセ、レースなどが適している」(○),「準礼装「セミアフタヌンドレス」のスタイルはワンピースに限り、それ以外のアンサンブルやスーツなどは適さない」(×),「夜の正礼装「イブニングドレス」のデザインに、オフショルダーやワンショルダーなどは適さない」(×),「正喪服のスカート丈は、くるぶしまでのロング丈でも良い」(○),「略喪服のスタイルは、ワンピースに限り、パンツスーツなどは適さない」(×)の8項目である。

以上の結果から、どのグループも正解率が低かった項目を見ると、答えが×のものがほとんどであり、その内容は、質問項目の中にひとつ間違いが含まれているものであり、なんとなくのイメージで答えており、間違っている箇所が読み取れていない。

逆に、生活創造デザインコース1・2年次学生が正解している項目は、アクセサリ類についての質問が多く、さらに、2年次学生は、正・準・略礼装の区別や昼間と夜間との区別がある程度理解できていると考えられる。

第2次世界大戦後、日本に洋服の着用が普及して既に70年近い時が過ぎているにもかかわらず、おしゃれに敏感な女子大学生において、フォーマルウェアのルールが、曖昧に認識されていることが把握できた。今後、我々の生活がグローバルになっていくことで、洋服をフォーマルな場所で着用することが多くなることを考えると、フォーマルウェアのルールをきちんと教えていく必要があると考える。

要約

社会において、日本のフォーマルシーンが増加していることを背景に、女子大学生がどの程度そのルールを理解し、認識しているかを探ることを目的とし、日本フォーマル協会のフォーマルスペシャリスト準2級の過去4年間のレディース問題を用いて、採点結果を分析した。

その結果、女子大学生は、祝事のフォーマルウェアのルールは、なんとなくイメージでは理解できているものの、うろ覚えの部分がありと推察され、『ドレスコード』などを、理解しているとは言えない。喪服の場合は、ルールはかなり理解されていると思われる。祝事のドレスのルールについては、すでにフォーマルスペシャリスト準2級を取得した学生と他のグループとに差が見られ、平均点が高く、ある程度の知識が理解できているが、時間の経過に伴い忘れていた項目もいくつか見られた。他の3グループは、フォーマルウェアのルールについて詳しく学ぶ機会がなかったと考えられる。

おしゃれに敏感な女子大学生において、フォーマルウェアのルールが、曖昧に認識されており、今後、洋服をフォーマルな場所で着用する機会が増えると予測できるため、そのルールをきちんと教えていく必要があると考える。

文献

- 1) 中川早苗他：被服心理学, 119, 日本繊維機械学会 (2004)
- 2) 清家壽子他：フォーマルウェアルールブック, 2, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 23, 26, 27, 日本フォーマル協会 (2014)

